2020年(令和2年)
7月20日第377号

あんしん Vol 377

発行 株式会社 安藤プロパン

〒955-0095
三条市代官島川原271
TEL. 34-7656(代)
FAX. 35-6326

あんしん取材班が行く

〈三条市〉国産実用車・バイク・家電他 KYOWAクラシックカー&ライフステーション 産業文化展示室を訪ね

「三条市にクラシックカーとバイクそして昭和の古道具を沢山収蔵している会社が有るので"あんしん"で是非取材に行ってみて下さい！」と読者からの情報をいただき取材班は国道8号線を南に向かい、三条大橋たもとの共和工業株式会社内にある"KYOWAクラシックカー&ライフステーション"を訪ねた。

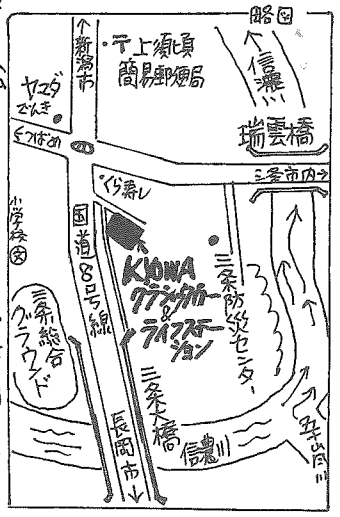
駐車場に車を停めると、笑顔で共和の松井さん(51)が出迎えてくれた。ロビーでテレビ新潟の取材ビデオを視聴し館内の説明と、レンタル予定の「ホンダS800」と「ホンダCBX400F」の試乗ビデオを視せていただいた。

館内に入るとまずスバルN360が展示されていて一階部分はクラシックカーがズラリと並ぶ。思わず「おー!!」と歓喜の声が上る。時代と共に進化する住年のクラシックカーの数々、今でこそクラシックカーと呼ぶものの、当時にとっては世間が注目するニューモデルカーであった。壁面には当時のポスターや手描きの車を背景にした絵画が飾られてある。

"昭和の暮らし・レトロ体験"のコンセプトとして「日本の明治維新以後から高度成長期を彩った昭和時代の希望と明るさ、躍動感に満ちた時代が生み出したあらゆる"愛すべきモノ達"を、実際に触れて使って感じ、楽しみながら学び、次の世代に伝えたいという思いのもとに作られた展示室です」とある。体験順路は①、国産車の誕生として懐かしい重厚なクラシックカーが勢揃い。②、昭和を駆け抜けた名車、クルマ編、オート3輪やバイク荷車が展示。③、自転車～バイクの歴史、自転車にエンジンを取り付けてバイクに変わって行く進化形を展示。④農具、民具の歴史。⑤昭和の名車バイク編。⑥、昭和レトロな家電、雑貨、生活用品他の歴史、人力車や嫁入り駕籠(かご)、蓄音機は実際に使用することができ、松井さんから音を鳴らして頂いた。1890年製である。ディスクオルゴールは1901年ドイツ、シンフォニオン社製。上方の窓から見える円盤へ交換可能)に曲が刻まれていて、これも松井さんからゼンマイを回して嫁動し曲を鳴らして頂いた。⑦、カメラ他。⑧、図書コーナー。⑨、休憩コーナー。と、1階～3階までゆっくり観ると2時間は要する。外観の建物からは全く想像がつかない。収集は30年は要した。

体験(収蔵室)
・大人1人 1,300円
・子供1人 900円
(小学生まで)

体験申し込みケータイ：松井さん
▶KYOWAクラシックカー&ライフステーション「産業文化展示室」080-2182-4387



なお、当時の生活雑貨などは、ソフト作成のエリアとして展示がされていて、カンダンダードスロジ式

たという。壁面の手描き絵画は当時の社員の制作。ポスターも貴重なポスターが掲示されている。展示品は正に『文化遺産』と『お宝』の数々。実に素晴らしい。

ただし体験するには事前の予約が原則となっている。今後はオープンカーのホンダS800のレンタルを開始する。バイクは好きには、大人気のホンダCBX400のチョイ乗り体験が出来る。

先人達が人々の営みを豊かにするために作ったツールを、子や孫、後輩に伝えて行く貴重な収蔵室だ。

▶日産自動車の第1号車

▶マツダキャロル軽初4人乗り

▶原動機付自転車

▶エジソンの蓄音機

▶ディスクオルゴール

▶テレビの移り変わり等

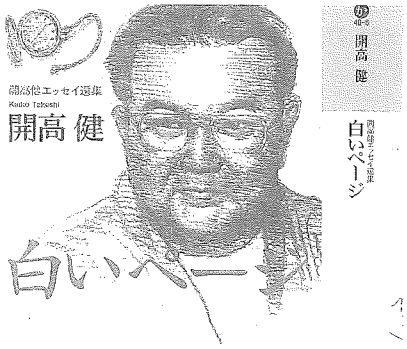
▶ホンダS800カ・ホンダCBX400

コロナ禍の中、年に一度の極上な楽しみ

社長 安藤幸広

新潟県に今年2020年は6月13日金曜日正午12時から、冬期間閉鎖が解除されようやく区間開通になった国道が初雪間近の11月初旬まで通行が可能となる。国道352号線は別名「酷道352」とも称されるが、安藤、初夏に過去何度もこの区間を通っている。が、これが果して国道？　といつも思う。山間中腹の道は細くくねりそのような道が延々と続く。曲がりくねりそのよう右下は深い崖や谷底の場所も多い。時たまの対向車とのすれ違いもとものすれ違いをする。標高1,000m近くの峠に着くと峠周辺は程良く整備されており駐車場・トイレも数ヶ所もあり特に時間散策すれば越後三山（駒ケ岳・中ノ岳・八海山）や荒沢岳・銀山平・大湯温泉方向が眺望できる素晴らしい景色を堪能できる。また駐車場付近から5分10分15分ほど歩くとあるいは駒ケ岳への登山道途中には滝のように雲が流れ落ちる滝雲雲海ビューポイントも数ヶ所もあり特に紅葉時期の早朝、気象条件が合えば滝のように流れ動く雲海の眺めは筆舌尽くしがたい感動も体験できるようだ。しかし、小生、滝雲はまだ未体験。

読者の皆様の中には枝折峠とか銀山平と聞けば、山登り愛好家や渓流釣り岩魚釣り愛好家であれば心動かされる地名でありましょうか？。この地、奥只見や銀山平周辺をこよなく愛した小説家に芥川賞作家の開高健（1930年生まれ1989年没）がいた。1970年代に銀山平周辺の渓流釣りに匠とりつかれて常見師にこの地に長期滞在し頻繁にしている。北の又川の畔に立つ村杉小屋を根城に銀山平湖や北ノ又川の鮎釣り岩魚釣りにのめり込んだという。



1970年代当時の銀山平は電気や水道も電話もない。国道352号線も細い砂利道でしかなかったと聞くが、開高は杉村小屋に原稿用紙・ペン・インク・灯りの元で小説集やエッセイ集などの草稿を練り原稿を書いて送っていた。沢の水を引き込んで村杉小屋番人の佐藤夫妻が作る山の幸や川魚料理を食べ、春は殆どの山菜を食べ尽くしたという。特にアケビの新芽の巣篭もりは大好物となり「どんぶり鉢」で食べていたという。アケビの新芽をどんぶり鉢で食べるとは羨ましい限りである。

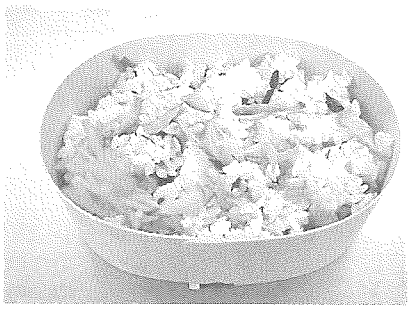
日中は釣りに専心し夜は原稿を書き食事時は焼酎グラスに指二本を守り、一杯また一杯と飲む。そして夜がふけていくのだ。文壇など多くの名士・経済界の著名人達も開高を追って当時の銀山平に来て当時の銀山平に来ている。しかし開高、反省の意味もあり銀山平の将来を憂い「奥只見の魚を育てる会」設立にも大いに尽力していた。

釣りの話はさておき「開高めし」も考案している。醤油味？の山菜焼きめしである。レシピも3か条厳守で、

その1、山菜を3種類入れる（ぜんまいは必須、その他わらび・こごみ・ふき・うど等）。

その2、必ず、油少なめにして炒める。

その3、紅ショウガを添える。



▶開高めし

▶文学碑

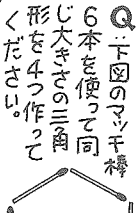
である。現在「開高めし」は魚沼ブランド推奨品となっていて小出の惣菜弁当屋さんの「おおもも」に電話で予約しておくと翌日買うことができる。開高めし・開高めし弁当「おくたばみ」（おかずは肉がメイン）・「ぎんざん」（魚がメイン）の3種類がある。

さて本日のタイトルの極上の楽しみとは？　である。待ちに待った枝折峠方面の国道352号線が開通すると天気予報で数日後の天気を確認する。そして行く日を決める。「おおもも」さんに電話して開高めしを予約する。当日おおももさんで予約の弁当をもらい枝折峠に向かう。運転に注意し枝折峠・銀山平周辺にてしばし素晴らしい景色を堪能、北ノ又川に架かる石抱橋近くの開高健文学碑「河は眠らない」付近に車を止め、橋上の北ノ又川から駒ケ岳方面の風景など眺める。空気も美味しい。川音も素晴らしい。そして「開高めし」をそそと食べるのだ。開高めしを食べている途中にエッセイ集「白いページ」の「銀山湖畔の水は水の味がし、飲む」編の「日の水は木は木であり、雨は雨であった」この下りなどを読み、この下りを書いた開高健の心境に迫ってみる。これが「年に一度の極上の楽しみ」なのである。そしていつも思う事だが58オで亡くなった開高健にはもっと長生きしてもらい小説やエッセイ集を沢山書いてもらいたかった。「河は眠らない」文学碑前に立つといつも同じ事を思うのである。

へ次回に続く

今月のクイズ

Q. 下図のマッチ棒6本を使って同じ大きさの三角形を4つ作ってください。



A. 375号の答
①D ②C ③E ④B ⑤A

当選者
近藤久美子さん（加茂市）
田中敦恵さん（三条市）
栗原一恵さん（加茂市）
鈴木貞子さん（三条市）
佐藤百合さん（三条市）

▶オモテ

〒955-0095 三条市代官島 川原271
(株)安藤プロペン
あんとるぎ係

▶ウラ・クイズの答・氏名・住所・年令・おつとめ先・メッセージ

しめきり 9月10日